

北星学園余市高等学校に対する協力会としての学校評価

北星学園余市高等学校協力会
事務局 平野 純生

はじめに

北星学園余市高等学校協力会は、1994年に余市町の経営者有志により北星学園余市高等学校を支援するために結成された任意団体です。協力会には2023年度現在、余市町内外で北星学園余市高等学校と関係にある企業の代表者など57名の個人が会員として登録しています。

コロナ禍で3年ほど活動は停滞してきましたが、今後はまた、学校や生徒たちの活動を支援するための多面的な活動を模索していきたいと考えております。

この度は、全校生を対象に行われた在校生アンケートの集計結果に基づいて、学校の教育活動についての学校評価を行っていきたいと思います。

コロナ禍の中で急激な生徒減や教育活動の制限を経験しながらでも、懸命に、真摯に教育活動に励んでこられた教職員と生徒のみなさん、そしてその教育活動を支えてこられた保護者の皆様への尊敬と感謝の意を表したいと思います。

1 在校生アンケートの分析と課題

I 在校生の現在の意識の分析について

在校生が現在の学校生活に対して抱いている意識を聞いた設問を踏まえた分析を3点にわたって記述し、その分析に基づく学校の教育活動の今後の課題にも言及します。

- ① 学校生活の基本的な部分に対する生徒の意識は、A1「学校ではほとんど休まずに登校している」とA4「平日も朝決まった時間に起きられる」の2つの設問への在校生の回答に表れています。その2つの設問に対して、「強くそう思う」と「そう思う」と回答した割合が、ともに50%を超えています。このことは、在校生たちが北星余市高校での学校生活に対して、全体としては積極的に生活できていることを示しています。
- ② 学校で行われる教育活動に対する生徒の意識は、A2「学校行事や部活動、課外活動には積極的に参加している」の設問への在校生の回答に表れています。その設問に対して、「強くそう思う」と「そう思う」と回答した割合が、50%を超えています。このことは、在校生が北星余市高校の学校行事と課外活動に対して肯定的な意識を持っていることを示しています。
- ③ 人間関係に対する生徒の意識は、A5「友達とは頻りに連絡をとっている」とA6「親子関係は良好なほうだ」の設問への在校生の回答に表れています。その2つの設問に対して「強くそう思う」と「そう思う」と回答した割合は、非常に高くなっています。このことは生徒たちが人間関係をとても大切にしていることを示しているとともに、特に親との関係を大切にしていることを示しています。

以上の分析から、今後の学校の教育活動では、次の2つの観点を大切にすることが重要だと思います。1つには、これまで北星余市高校が大切にしてきた生徒を集団として育てるための行事や課外活動での取り組みは今後も充実させる必要があり、さらにA3の設問では在校生の肯定的な回答が50%を超えなかったグループワークへの生徒の意識を踏まえて、日常の授業における集団的学びの充実も課題の一つだと思います。2つ

には、生徒の保護者との関係が良好であることは、学校が教育活動を進めるうえでは大変重要な要素なので、今後も保護者の学校の教育活動への理解が、深く進むような工夫をしていく必要を感じます。

II 在校生の入学前の意識についての分析について

北星余市高校へ入学前の自分の状況についての25の設問に10段階の数字で回答しているアンケートの集計結果については、ある程度の特徴が見て取れる設問がいくつかありました。そのことについて記述します。

- ① 設問4「計画的に行動できる」、設問10「グループワークは楽しいと思う」、設問16「自分は価値のある人間だと思う」、設問18「生徒主体の行事や活動に参加するのが好きだ」の4つの設問の集計結果は、10段階のうち低い評価をする生徒が、高い評価をする生徒より多いという傾向が見られます。おそらく入学する前の自分を振り返ると、これらのことに対して自己評価が低い生徒が一定程度いるということなのではないでしょうか。
- ② 設問5「人の話に耳を傾けられる」、設問7「他者を理解しようとする気持ちがある」、設問14「何かを創り上げることは楽しいと思う」、設問15「話し合いは重要だと思う」の4つの設問は、10段階のうち高い評価をする生徒が、低い評価をする生徒より多いという傾向が見られます。おそらく入学前には、他者との人間関係を良好にしていきたいという気持ちを持つ生徒が多かったということを示しているのではないのでしょうか。

以上の分析から、入学前の生徒の意識についてのアンケート集計結果は、生徒募集活動に生かすことができると考えます。たとえば、このような生徒の意識の傾向を踏まえて、北星余市高校の教育を体験する中で、生徒が温かな人間関係に基づく集団生活の中で成長し、変わっていく可能性があることを、生徒自身や保護者に対してアピールしていくという観点が大切なのではないのでしょうか。

最後に

在校生アンケートの集計結果の分析を行う中で協力会としての外部評価を行ってきましたが、北星余市高校が今後も大切にしていけるべき教育の在り方を象徴的に示している1つの教育実践があります。

それは、北海道庁が発行している広報誌「ほっかいどう」2023年11月号において『高校生のマナビバ』のコーナーで紹介されている北星学園余市高等学校ボランティア局と余市観光協会との協働での余市町内の観光サイクリングマップ制作の取り組みです。ボランティア局の生徒たちは実際に余市町内を実際に走って確認したサイクリングルートにイラストやコメントを盛り込んで「余市サイクリングマップ」を作成し、そのマップは、余市町を訪れた観光客に余市の景色や歴史、特産物を楽しんでもらえるように、駅や観光協会に配布されているそうです。

こうした教育実践は、北星余市高校が余市町に開校して以来追求してきた地域のために役に立つ学校であろうとする姿勢が結実したものと言えます。生徒たちの多くは余市町以外の地域から入学してきますが、そうした生徒たちが余市という地域の自然や人たちと関わって体験したこと、学んだことを地域のために役立てるといったこうした活動は、地域に支えられている全国の多くの小規模校の理想的なあり方を示しているように思います。

今後とも、全国の多くの小規模な高校が目指している地域との連携という重要な教育実践を、ますます充実させていく教育実践を作り上げていかれるよう期待します。